

月報 2021年 2月28日 No.361

石城山岳会

2月号

# 四方通信



石城山岳会事務局編集

月石山 (686m)

「第3高倉山 163m・第1高倉山 212m」

いわき七峰縦走 (関伽井嶽パス)

大滝根山 (1,192m)、高塚ボツケ (1,066m)

関伽井嶽・水石山

日山 (1057m)

赤面山 1701m

冬山講習 (猪苗代スキー場)

湯ノ岳連峰 781 m峰

雪洞訓練

雪の安達太良山（1699.6m）

水晶山・洞窟探検

日立アルプス縦走（小木津自然公園から助川山市民の森）

日立アルプス縦走（小木津駅→大甕駅）

三本槍岳 1916.9m

<sup>ぐみ たいら</sup>  
茱萸平から屹兔屋山、猫啼山、ニッ箭山周回

2012年2月登山教室「八森山スノーシュー」

湯ノ岳・陸軍練習機殉職慰霊碑

和尚山と田人最高峰 802m無名ピークのウォーキング

島倉山案内

# 月石山（686m）

2021年1月17日（日） 太

図書館で遠野の山々を調べていたとき、郷土誌と古い5万分の1地図で、入遠野の「月石山」を知った。天王川を挟んで対峙するが、往生山599mより少し高い。郷土誌の「山腹二霊地アリ」が気になったので、字東山の大山祇神社から登った。（※）

神社の石鳥居前に駐車、本殿の脇を登っていく。倒木のほか、伐採した木や枝が重なり伐採作業で寸断された場所、藪になった場所などがあり、あまり地図の道は残っていなかった。ヒノキ林の中を選び、藪を漕いで登り切ると、頂上は雑木林の中。人の背丈ほどの笹藪に覆われ、山頂を示すものは何もなく、あるのは境界標石と、疎らに点在する背の低い岩だけだった。岩のひとつに立つと梢を透かして辺りが見えるので、樹木さえなければ、ほぼ全周囲の展望が得られるかもしれない。往生山、鶴石山は確実に見えると思った。

残念山行と思われるかもしれないが、実は良い山行。標高500mを超えたあたりで立木を伐採、苗木を植えている場所に出ると、素晴らしい眺望がひらけた。目の前に遠野の街並み、滝富士、その向こうに火力発電所、鶴ノ子岬、五浦岬、遠く輝く太平洋が広がる。田人の山々、仏具山なども近い。721m峰で遮られ、電波塔、天狗山などは見えないが、目の前に送電線の走る三大明神の峰も大きく迫る。機会があれば再度行きたい場所だ。

下山は、一度山頂裏の林道支線に出てから、より良いルートを探しながら下った。

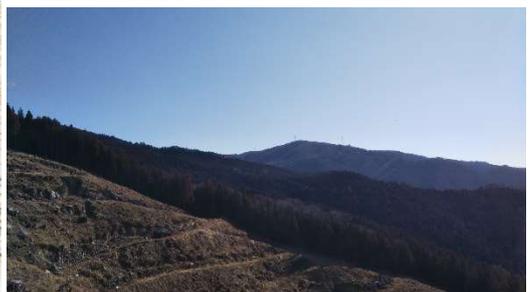
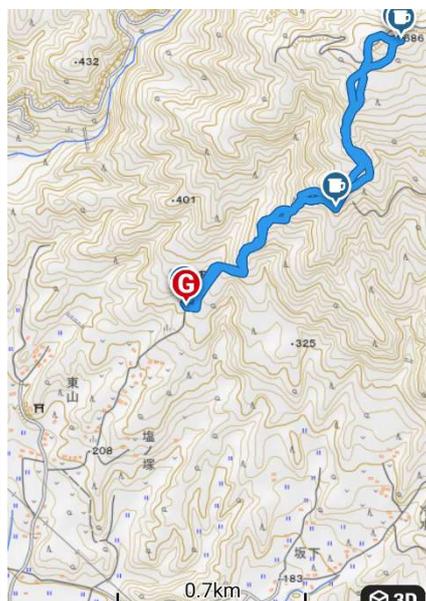
（※）郷土誌（入遠野小学校）明治44年

月石山 本村大字東山ニアリ海拔六九四米、山腹二幡ノ沢山神ノ霊地アリテ延暦年中猿丸太夫ノ祠  
レルナリト傳フ

文責：太

## コースタイム

9:00 大山祇神社→9:30 伐採植林地→10:10 山頂→10:15 林道出合い  
→10:40 伐採植林地→11:00 大山祇神社



# 「第3高倉山 163m・第1高倉山 212m」

2021年1月31日(日)

参加者：秋葉校長他山岳会会員 12名、登山教室生 3名

報告者 国井明夫

高倉山は、嘗(かつ)て栄えた常磐炭鉱の山である。地元では昔の抗口の名から第一高倉山(212m)、第二高倉山(182m)、第三高倉山(163m)と呼ばれている。炭鉱全盛期、周辺は炭住街で居住者も多く、子どもたちの遊びとして登られていた山だそうである。

この日は、まず、第三高倉山を森登山口から登り、湯本第三中学校側へ下るコースである。湯本第三中学校へ集合して、車に分乗して、森登山口近くへ移動した。駐車場所から道路沿いを歩いて民家裏の登山口へついた。いよいよ登山、最初は水路を歩いていく、結構急な登りで、約30分で山頂到着した。山頂では、山岳会会員がチェーンソーで木々を伐採中、おかげで山頂からの眺めは、素晴らしく、いわきの山や海がきれいに眺められた。伐採した木の整理片付けとベンチ作成し、休憩となった。休憩中に秋葉校長の提案で第1高倉山も登ることとなった。休憩終了後、湯本第三中学校登山口へのくだりも急な道なので、慎重に下ってきた。

次に第1高倉山へ登るため、各自の車で、登山口近くの旧白水小学校等に駐車した。旧白水小学校脇から道路を登り、民家の庭を通り、民家裏の階段の山道を辿ると直ぐに山神社に出る。そのまま尾根を進み岩壁の手前から右の尾根に移る。岩壁にあるトラロープを登ると山頂となる。山頂から先に進むと絶景の展望台に出る。

この日は、天気が良くいわきの山々がきれいに眺められた。秋葉校長から湯の岳のくま杉脇にある米軍機墜落場所を教わる。展望台は、風が強かったので、風の当たらない山頂に戻り、昼食となった。昼食後、同じコースを戻り下山後、解散となった。

天気にも恵まれ、気持ちのいい登山となった。

【コースタイム】 湯本三中 9:00→第3高倉山登山口(森) 9:20→山頂 9:50~10:20→湯本三中登山口 11:00

第1高倉山登山口 12:10→山頂 12:40→登山口 14:00



第1高倉山から湯の岳



第3高倉山頂

# いわき七峰縦走（関伽井嶽パス）

2021年2月6日（土） 太・山縣・二瓶

昨年12月6日に会員中心に七峰縦走を行ったが、もう一度やろう、小玉ダムまで歩こう、と有志で実行。午前6時に好間で2名集合、小玉ダムに向かい、そこで1台駐車。移動して水石トンネルで1台駐車、1名合流し3名で湯ノ岳へ移動。7時半過ぎに湯ノ岳駐車場に到着。準備を整えスタート。

湯ノ岳駐車場から水石トンネルまでのAコース相当部分は、ほぼ順調に縦走。水石トンネルで営業していた食堂を利用して30分ほど昼食休憩。後半をBコースどおりに縦走するか3人で相談し、関伽井岳分岐（CP5）にて判断しようとなった。舗装路歩き、成沢での馬の撮影等もあり、ゆっくりペースで歩いた。

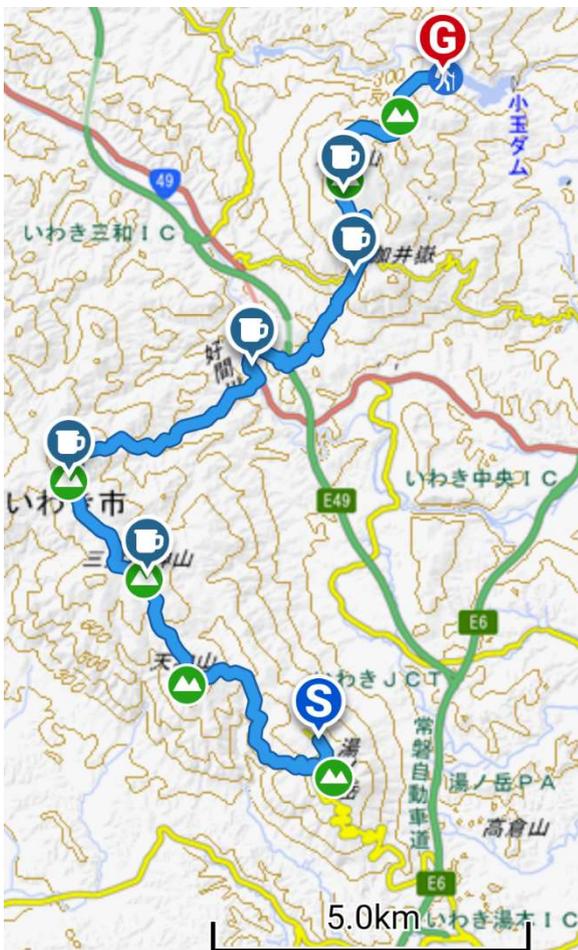
関伽井岳分岐（CP5）到着は2時半過ぎで少し遅めになったので、関伽井嶽ピストンをやめ、水石山、剣ヶ峰を経て、小玉ダムまで行くことに。ダム到着は午後5時前後だが、日没まで多少の余裕があった。

下山後は順次車を回収し、水石トンネルで1名帰宅、湯ノ岳駐車場から2名帰宅となった。

（文責：太）

## コースタイム

7：40 湯ノ岳駐車場→7：55 湯ノ岳→8：55 田代（CP1）→9：30 天狗山→10：10 三大明神山→10：30 三大明神三叉路（CP2）→11：00 ニツ石山→12：25 水石トンネル（CP3）12：55→13：35 成沢（CP4）→14：35 関伽井岳分岐（CP5）→15：30 水石山（CP6）→16：10 剣ヶ峰→17：00 小玉ダム



# 大滝根山 (1,192m)、高塚ボッケ (1,066m)

2021年2月06日

小林 憲



昨年、雪の時期に大滝根山に登って楽しかったので、今回は石ボッケ登山口から登り高塚ボッケまで行ってきました。

いわき周辺の山々に石ボッケ登山口までのルートが記載されていたので、Google MAPで予習し、迷うことなく登山口に到着しました。

大滝根山はそこそこ人気の山だと思いますが、石ボッケ登山口には車が1台もなく、薄っすら積もった雪の登山道からスタートしました。

薄暗い杉林の少し急な登りを抜けるとしめじ平に到着した。少し進む方向を探しましたが見える山の右側を巻き気



石ボッケの上から山頂 誰も歩いていません 足跡なし

味に進むことを確認してピンクリボンの登山道を見付け—安心しました。

石ボッケ（石仏）のあたりから雪が少し増えましたが、深い所でもひざ下程度で、ツボ足で進みました。前回、結構雪のあった自衛隊基地横のトラバース箇所にはあまり雪がなく、反面ドロで滑らないよう気を付けて無事、山頂の神社に到着しました。

前回は自衛隊基地の中の三角点が見えると知らなかったなので、今回は神社の後ろまで行って確認してきました。

梵天岩で小休止後ペラペラ石へ立ち寄ってから高塚ボッケへ行きました。このルートも誰の足跡もなく、気持ちよく歩けました。高塚ボッケの頂上で少し遅い昼食としました。



峯霊神社

目衛隊基地内の三角点



ベフベフ石 裏から登れます

風力発電の風車（桧山高原風力発電所？）がたくさん見えてましたが、屹兎屋山から猫啼山もこのようになるのでしょうか。

ペラペラ石からの下りは距離の長い道を歩いてしまったので、帰りは距離の短いコースで帰りました。

途中からは自分の足跡を辿って行けば楽勝と思っていましたが、タコブナの少し上で雪のない箇所があり、少し右に下りるべきところ直進してしまいました。

素直に登り返せば良かった（原則であることを痛感しました）のですが、GPSで場所を見ると大きくは外れていないので、横移動でルートへ復帰を試みました。ふと気付くと、胸ポケットのスマホがありません。先ほどスマホで位置確認した場所からは30mくらいしか移動していないので、移動したルートを30min以上探しましたが見つけ出せませんでした。

日が暮れると困るので、泣く泣く下山です。紙の地図とコンパスで方向を確認しながら無事下山できました。普段、どれだけスマホのGPSに頼っているかが良く判りました。

小野町の警察で遺失物届を手続きしてから帰路につきました。

あきらめきれないので、翌日、再度落としたと思われる地点を探索し、何回も歩いた道の雪の中で一晩ビバークしていたスマホを無事救出することができました。よかったー。



高塚ボッケ（高塚山）

石ボッケ登山口 9:00~10:20 石ボッケ~11:20 大滝根山-梵天岩 11:40~12:20 ペラペラ石~13:00 高塚ボッケ 13:30...16:30 頃登山口 翌日 9:30 登山口~11:30 登山口

（文責 小林 憲児）

# 関伽井嶽・水石山

2021年2月7日(日)

佐藤幸子

2020年12月6日いわき七峰縦走コースでするしたコースを1人で登山してみようと思っていました。2月7日晴天で春の陽気と天気予報。ゆきこさんのまねをして、水石トンネル駐車場から関伽井嶽・水石山を目指して登山開始しました。関伽井嶽から水石山のコースは、1年前の七峰縦走コースを登山仲間と一緒に歩きました。1人で登山することに少し不安があったので、1度登山したコースがいいかなと思い、チャレンジすることにしました。歩行して10分後、1人で歩いて会話する人もいなく、寂しさを感じ始めたころ、馬や牛を見ることができ、勝手に会話出来ない馬や牛に話しかけ、気を紛らわす事が出来ました。今まで、あまり気にしなかった川の流れる音や風に揺れる木々の音を聞く事ができ、なんて気持ちがいいのだろうと感じました。10:49分出発し、ゆっくり歩いたためか、水石山山頂に到着した時刻は、13:50分になっていました。時間がこんなにたっていたことに驚きました。同じコースを戻る予定なので、ゆっくり下山すると、日没になってしまうとわかり、焦りを感じました。

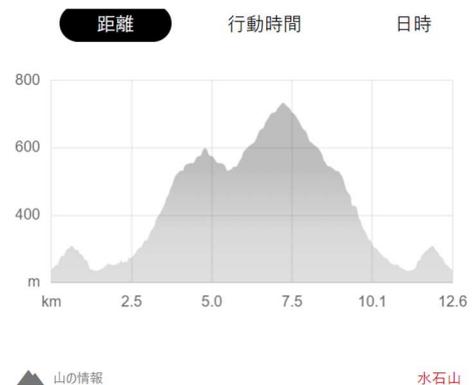
しかし、下山を焦り転倒しそうになり、下山時の事故発生率が高いことを思い出し、足の置き場に留意しながら、ストックを使い下山することが、出来ました。下山にかかった時間は、1時間30分でした。



今回の登山を体験し、1人で登山することの困難さを学び、貴重な経験が出来たと思いました。

この経験後、登山仲間と会話をして、1人で登山することが、如何に危険なのかを話し、「一緒に登山しましょう。」と言ってくれた仲間に感謝です。

文責：佐藤幸子



コースタイム

10:49分 水石山駐車場—12:39分 関伽井嶽山頂—13:45分 水石山山頂—15:15分  
水石山駐車場



# 日山 (1057m)

2021年2月7日(日) 太・柏村・山縣

近場でどこか登ろうとなり、阿武隈高地で第二位の高峰「日山」に登った。ルートは、周回しやすく人気のある、田沢登山口から登り、茂原登山口に下り、田沢登山口に戻る時計回りルートにした。

広い駐車場にトイレのある田沢登山口(下)に到着したのが9時半過ぎ。すでに何台か駐車していて、登山者も10人以上いた。凍った駐車場が滑りやすい。駐車場奥から上り始めると、茂原川口第二牧野で田沢登山口(上)からの道に合流。すぐに水速女大神(みずはのめのおおかみ)と鳴雷神(なるいかづちのかみ)を祀った石碑。そのすぐ上に休憩所の四阿。四阿を過ぎたあたりから雪道がずっと続く。

山頂も10cm程度雪が積もっており、雪がちらつく中、数人の登山者が展望台付近にいた。展望台で周囲を眺めたが、視界が悪く、さすがに近い移ヶ岳や羽山は見えただが、安達太良連峰や大滝根山などは雪雲にかすんで見えなかった。日山神社に登ったり、三角点を探したりした後に下山を開始。

茂原登山口への下るルートは、登ってきたよりも距離が長く雪道が続くので、軽アイゼンを装着する。途中で胎内くぐりがあるので、立ち寄って皆で順にくぐった。登山道の雪は登山口分岐の手前ですっかりなくなったが、茂原川口第一牧野付近で多少凍結があって滑りやすかった。

茂原登山口からは、牧野、キャンプ場を横に見ながら車道を歩き、田沢登山口(下)に戻った。

(文責：太)

## タイム

9:40 田沢登山口(下)→10:20 水速女大神石碑→→11:05 山頂(展望台、日山神社、三角点)  
→11:35 胎内くぐり→12:20 移登山口分岐→12:40 茂原登山口→13:00 田沢登山口(下)



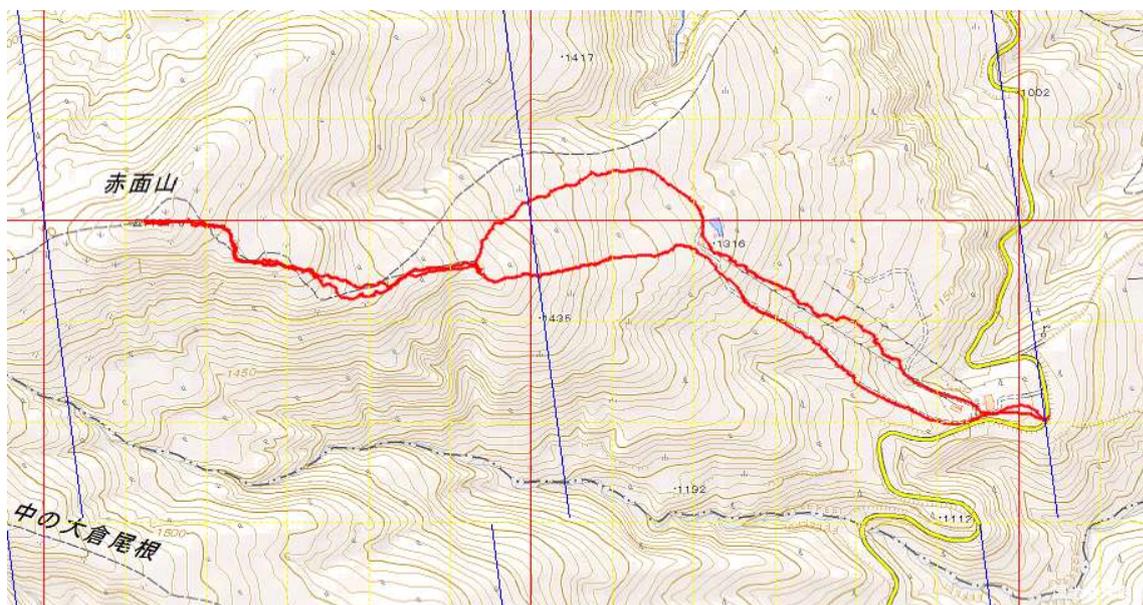
# 赤面山 1701m

2月7日（日）菅野、渡辺 敏夫

菅野さんとは今年初めてのBCスキー。天候の様子を考慮して、赤面山にした。赤面山には岳連の山スキーの行事で何回か来ている。これまでは赤面山から北東斜面を滑り、那須甲子青少年自然の家を經由して下の289号線まで下るコースを下っているが、今日は旧白河高原スキー場からの往復とした。道路わきに車を止めて歩き始めた。スキー場は廃業していて、スキー場のグレンデは植生復帰の植樹が行われ、樹間が狭いところが結構多い。天気は晴れだが、風が強く、山頂ではかなりの強風が予想されそうだ。山頂までは2時間程度で到着した。やはり山頂では風が強く写真を撮り早々に風が弱い山頂直下に降りて、スキーシールをはずして下った。尾根伝いのところでは滑りづらいが、樹林帯では樹間もまばらで滑りやすい。途中で昼食をとりグレンデの中を滑り降りた。今年は積雪が多いといわれているが、ここでは地肌が出ているところが結構あり、あまり積雪は多くなさそうである。風過ぎには下山できた。

旧白河高原スキー場登山口 8:51→赤面山山頂 10:51 10:56→山頂直下 10:57 11:17→昼食  
11:34 11:56→登山口 12:24

文責 渡辺敏夫



## 冬山講習（猪苗代スキー場）

2021年2月11日(木)

参加者：下山田、秋葉、栗崎（透）、栗崎（容）、柏村、山中

前日（2月10日）のスキー講習に続き、2日連日の猪苗代スキー場になります。

今日は冬山講習とのことでグレンデスキーではありません。リフト券も一日券でなくリフト2回分のチケットを購入しました。

ミネロコースのリフトを2本乗り継いで終点から中央へ移動、それぞれにスキー、スノーシュー、ショートスキーで樹林の中へ、20～30m登ったところで実習しました。

雪洞の掘り方の実習です。斜面に垂直に切り込みをいれ踏み固め2ヶ所から掘りこんでいきました。雪は地層のようになっていて、固い所・柔らかい所・氷状の所など層になっています。雨が降った気温が高かった大雪が降ったとか過去の天候が層になって表れていました。スコップで掘りますが子供の頃のかまくら遊びを思い出して結構楽しめました。また、スノーソーの威力がわかり必需品だと思いました。2ヶ所から掘り進んで中で貫通して空間を作ります。1ヶ所は最後に塞いで入り口は一つにします。

雪洞の中は外が風雪でも遮音性・断熱性抜群！大人6人には少々窮屈でしたが快適空間になりました。それから待ちに待った食事タイム！雪洞での食事は格別でした！

雪をクッカーに入れバーナーで溶かしてお湯にするまでを見ましたがけっこう時間がかかるものだと思います。

午後からは、ビーコン・ゾンデ搜索の実習予定でしたが、あいにくの悪天候で中止、早々に切り上げグレンデのレストハウスで休憩・暖をとってから終了になりました。

（文責：山中）



# 湯ノ岳連峰 781 m峰

日時 2021年2月11日 太

以前から気になっていた、湯ノ岳連峰の最高峰（781m）に登った。

湯ノ岳連峰の主な峰は、海側から湯ノ岳 593m、天狗山 631m、二ツ石山 751m、鶴石山 767m、馬揚山 723m、雨降山 771m、塩見山 721mと続くが、この並びで雨降山よりも高い峰があることは、あまり知られていない。地理院地図を見るとわかるが、鶴石山の北西 1500mにある、4等三角点「二本川」のある峰が一番高い。

国道 49 号から渡戸高野を経て、林道鶴石山線を走り、林道日波高野線に 400mに入った左カーブ地点に駐車。カーブから尾根に取り付く。ちょうど尾根に沿って林地境界杭が打たれ、たどって登れば、ルート（南東）がヒノキ、右（北西）が雑木と分かれ、藪もなく非常に登りやすい。おおむね直線的に登るが、傾斜は徐々にきつくなる。

頂上は、雑木で眺望はあまりないが、木々を透かして鶴石山、水石山、馬揚山などが見える。山名を示すものはないが、三角点と石碑がある。三角点石柱は「4等」の文字がはっきりと読める。石碑は何か「馬頭」と読める文字が刻まれていた。分岐や峠でない山頂に「馬頭観音」が祀られるのは珍しい。

後日図書館で、三和町郷土誌（永戸小学校）に、次のような記述を見つけた。

明治 42 年福島県訓令第 2 号編「アフゴノ峰 合戸渡戸及入遠野村ノ境界点ニシテ村ノ西位ニアリ海抜不詳山腹ニ鶴石ト称スル処アリ馬頭観世音ヲ祀ル」。

昭和 7 年福島県訓令第 34 号編「アフゴノ峯 俗ニ鶴石ト称シ山上馬頭観世音ヲ祀レリ其ノ支脈ニ峠森山アリ海抜二千三百尺」。

※辞書によると、アフゴ（おうご）は「杓」と書き、物を担う棒。てんびん棒であるとのこと。

郷土誌に鶴石山の記載がないので、馬頭観音石碑のある 781mが鶴石で、アフゴノ峰（杓ノ峰）は、鶴石山 767mなど含めた連峰の総称ということだろうか。

（文責：太）

## コースタイム

9：25 日波高野林道 S→9：55 頂上（781m峰）→10：20 日波高野林道 G



## 雪洞訓練

2021年2月11日(木)

猪苗代スキー場 国体コース上部

下山田、秋葉、栗崎透、容子、山中（受講生）、柏村

猪苗代スキー場の上部、リフトを二本乗り継いで国体コースの上へ向かうのだが、今年初めてのスノーシューが上手く履けない。以前に教わった「バックルは外側に」履こうとすると足の外側に体重がかからなくてベルトを締めこめない。雪は降っていて寒いし、手袋が分厚いので指先かかない、おまけにザックが重いし、ビーコンをつけているのでお腹がつかえてかがめない。

やっと履いたものの傾斜で転んだら外れてしまい、スノーシューの表示どおりに左右履きなおしてやっとのことで雪洞訓練の場所へたどり着いた。

栗崎シェフから「ここで弱層テストやってみて。」と言われ、傾斜地なのでシャベルを持ってそこへ行くのも一苦労。指導員研修を思い出し、直径30cm 深さ70cmの円柱を掘っていくが、昨夜だいぶ降ったらしく層の違いは見られずずっとふかふかの新雪。

秋葉さんのご指導で栗崎シェフと山中さんとで雪洞を作り始め、容子さんと私は下山田さんのご指導で雪洞の掘り方を教わりながら雪洞もどきのトイレブースを作りました。スノーソー(雪用ノコギリ)で切れ目を入れてスコップですくうと綺麗な四角のブロック状になります。それを積み上げて雪洞の入り口を塞いだり壁を作ります。登山道整備でもノコギリを使うのは楽しいですが、雪用はもっと有用で楽しい！スノーソー欲しくなりました。

でも、「緊急でピバークすることになって、スノーソーやシャベルを持っていなかったら？」と聞かれて、「その時あるもの、食器やストックで掘るしかない？効率悪いだろうなあ。。」

とにかく風を防げる穴を掘ってツエルトをかぶせるだけでも良いとの事。

約二時間かかって作ってくださった雪洞に入り昼食。栗崎シェフが雪からお湯を沸かす方法、雪だけでなく少し水を入れること、ガスポンプを雪に直接置かず出来たら温める事を教えてくださいました。外は雪が降っていて風も強いのですが、雪洞の中は静かでバーナーを焚くと暖かでした。

どんな場合にも備えることは必要だと思っておりましたが雪山での場面ではさらに用意や知識が必要なのだ、ここで一晩ピバークするとしたら。。。きっと怖くて寒くて心細いのだろうと感じました。

こうして今まで知らなかったことを体験させていただけること、大先輩たちの知識を授けていただけることを幸せに感じながらグレンデの端を歩いて下山しました。

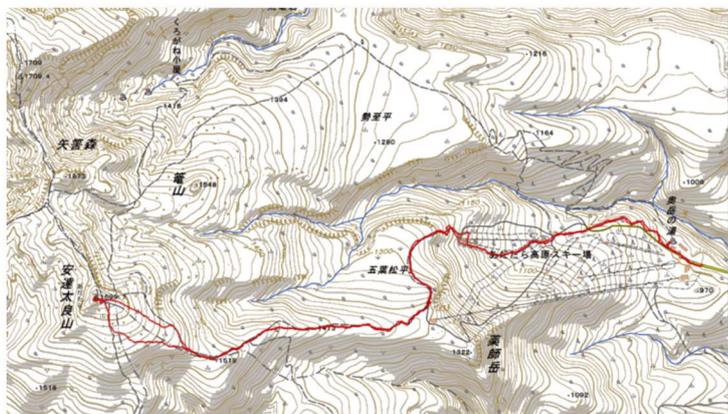
文責 柏村貴子



# 雪の安達太良山（1699.6m）

2021年2月12日

小林 憲兒



昨年初めて雪の安達太良山に登ったときは、下山時に晴天の山あるあるでしたので、この3日間天気も良く、風も弱そうなので、有休休暇を取っていたこともあり安達太良山へ行ってきました。

本当に天気が良く、歩きだして10minくらいで汗が吹き出しました。帽子を脱ぎ、上も脱いで、手袋も雪山

用から普段の冬の手袋にチェンジしました。30min程度歩いたところで先行の方がスノーシューを履いていたので、ワカンを装着しました。

くろがね小屋経由で登ろうと思っていましたが、みなさん薬師岳経由で登っているようなので、ピストンで登ることにしました。毎週登っているという方によるとリフトの終点から五葉松平までの登りがこのルートで一番急登とのことでしたが距離が短いのでゆっくり登ることで難なくクリアできました。

傾斜の緩い松林を進み半分雪に埋もれた五葉松の標識に到着しました。安達太良山の山頂が良く見えワクワクします。空は雲一つなく…とは言えませんがきれいな雲が出ていました。薬師岳で小休止後、トレースを辿りながら山頂を目指しましたがGPSを確認すると和尚山からの登山道の方角に進んでいました。まあ、山頂も見えていますし、どこを歩い



ても登れそうなのでそのまま山頂を目指しました。

蔵王や西吾妻のようにモンスターではなくチビッコの樹氷のなかを歩いて山頂下の安達太良山標識に到着しました。ここでワカンから12本アイゼンに交換し、ザックをデポして乳首に登りました。





山頂は先行者1名のみで下山しようと言われていたので、急いで写真を撮っていただきました。乳首への登りは左側から登ると雪のある方が登りやすかったです。しばらく山頂貸し切りで景色を楽しんだ後、戻って昼食にしました。今日は風もないので沼の平の雪景色も見えたかったのですが、時間を見て断念し下山することにしました。

絶景の山頂でしたが、14日に登った人の写真を見ると、写真では雪の中の石柱も祠の屋根も崩れていました

下りは夏道のルートをきれいなシュカブラも見ながらサクサクと進み薬師岳まで到着しました。下山するの



がもったないくらい良い天気で、薬師岳でゆっくり休憩してから下山しました。最後にショートカットの足跡がついていたので、そこを進むと登った時とは反対側のグレンデに出てしまいました。足跡もついていたのでそのまま進もうとしていたらスキー場のパトロールの方に「そこは登山コースではありません」と呼び止められ、少し登り返して登山コースを下山しました。今日は本当に2月とは思えないような好天に恵まれ、楽しい1日でした。

奥岳スキー場 9:10~10:40 五葉松平~11:00 薬師岳(休憩)~  
13:15 安達太良山山頂(山頂下で昼休憩) 13:50~14:30 薬師岳(休憩) 14:55~15:40 登山口  
(文責 小林 憲兒)

## 水晶山・洞窟探検

2021.2.9(火) 秋葉、栗崎、吉田、蛭田、尾形長子、下山田

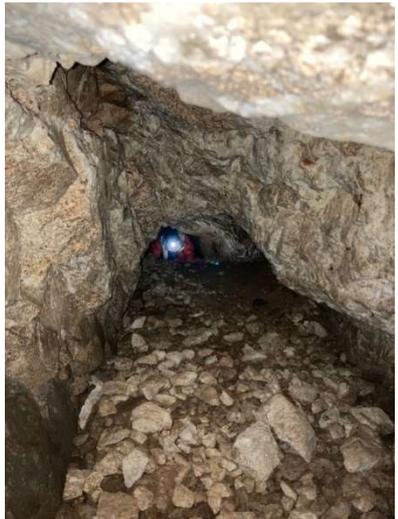
2021.2.18(木) 秋葉、下山田、吉田、尾形成久・長子



「趣味は何ですか?」「山登り、ハイキングほどですが」と答えるとよく、「なんで山に登るんですか、どうして、何時から山に登るようになったんですか?」と聞かれる。

振り返ると昔両親が間借りしていた時、その家に男子がおり、私もそこで育ったこともあり、家族同然に接してくれた。

保育園や小学校に上がるころ兄ちゃん(当時の呼び名)は高校生となり担任の先生の影響か「鉱物」に興味を持ちはじめ、岩石を集める時に石森山、二ツ箭、絹谷富士などを一緒に歩いた。その中の一つが水晶山。当時はバスで小川の発電所から歩き山肌にある水晶を取りに行った。その山の斜面の上部に洞窟があり、中は一部2段になっている処だった。



中学生のころ一度発電所から友人数人と向かったが記憶があいまいでたどり着かなかった。会の総会後の懇親会で会員の関内さんがお父さんの関係で発電所に家族でおり、そこに行ったことがあると聞いた。いつか行きましようと話をしていたが、かなりの年数がたってしまった。

やがて軽井沢のガロ山に行くことがあり、地図を見ていると「そこから近いんだよな。」となった。

秋葉さんがその話を覚えていたのか、関内さんから地図に場所を落としてもらった。

2月9日、探索一回目、林道歩きを覚悟していたがラッキー、ゲートが開いていた。ガロ山との分岐近くに置き目的地を探す、こと3時間しかし見つからず帰路となった。



GPSの軌跡を地図に落とすと目的地付近を確かに通っている。悔しさもあり2度目の探索、前回より先に車を進め逆回りの洞窟探しとなった。

今回も目的地近くを通るものが見つからない、あきらめながら帰路についたが、洞窟は山の上部、洞窟は岩場で出来ているので岩場が続くところを若い睦さんが登ってみる。

その手前の沢状の斜面を秋葉さんが登る。

と、睦さんが突然「秋葉さんの上部の岩場に穴が開いている。」の音が響く。

下にいた皆が上がり始める。洞穴に近づくと既に睦さんが入ってい

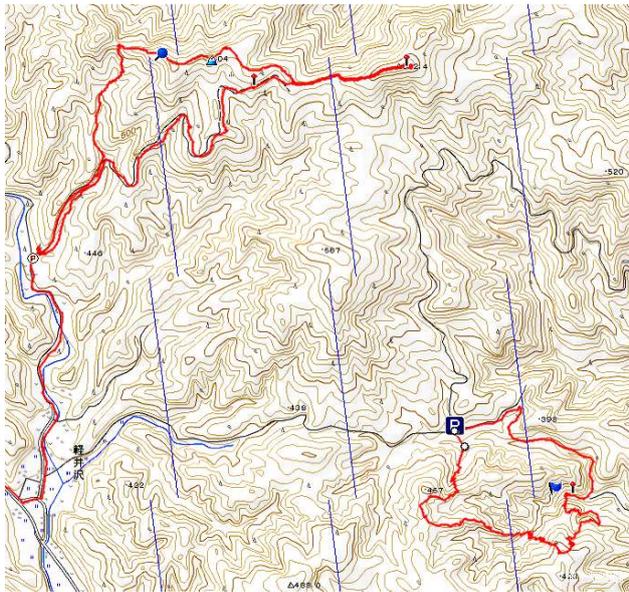


た。急ぎヘッドランプを点け穴に潜り込む。狭いところを潜り抜けると上部が開いている。立ち上がりのぞき込むと確かに上部にも通路がある。「ここだ、二階建てだ！」心願成就、60余年前の記憶が蘇ってきた。

二階に上がったところで下の奥に行っている睦さんが「奥で何か光って動いている」と言ってきた。蝙蝠かなと思っていたが目らしいものが4対動いている、とのこと。

にじり上がった2階の奥からも確認できた。どうやら動物が奥に巣を作っているのだろう。7対の目が動いている。

どうやら、4つ足の動物らしい、隅にテリトリーのためか、糞がある。危ないのでこれ以上奥にはいかないで戻ることとした。



今後は最初に歩いた小川の発電所からの道をたどり、当時採った大きな水晶を今度来た時に取ろうと一緒に埋めた場所を探す事。

洞窟をめぐらにしている動物の正体を見極めたい思いからもう少し通ってみたい。



# 日立アルプス縦走（小木津駅→大甕駅）

2021年2月20日（日） 太

日立アルプス縦走コースは、鞍掛山～羽黒山～神峰山～御岩山～高鈴山～真弓山～風神山を結ぶ、約30kmのハイキングコース。今回は、JR小木津駅をスタート、小木津山を登り、羽黒山の手前からコースに乗って風神山まで縦走、JR大甕駅にゴールした。

始発電車に乗り、小木津駅に到着したのが午前6時34分。小木津山自然公園の駐車場まで歩き、園内の海が見える北展望台（山頂）に登った。そこから先がハイキングコースで、道が細く薄暗い植林地、ススキが茂る場所なども通ったが、羽黒山の手前で順調に縦走コースへ合流。

縦走コースは、よく整備され、特に神峰山、御岩山から高鈴山の間は、県北の山々や那須連山などの眺望を楽しむハイカーで賑わっていた。その先は寂しく、一部笹深いところがあったが、道はしっかり。

県道37号に出会うと、ゴルフ場内を歩くが、場外に出ると単調な長い作業道が続き、林道を横断すると道も細くなる。樹林の小道を延々と歩くと、唐突に採石場につながる林道に出る。

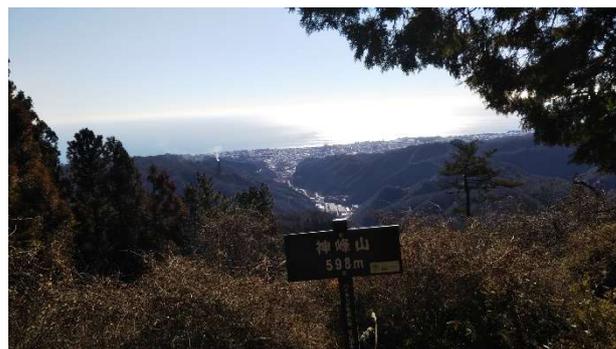
林道を行くと真弓山（真弓神社）への入口があり、そちらへ進む。神社からは関東平野が望めた。その先、風神山までは道もよく、トレイル・ランナー等が少なくなかった。風神山からは舗装路を避けて森山町に下山し、大甕駅にゴール。17時14分発の電車で帰った。

天候に恵まれ、時折眺望も得られて約30kmを歩く、久しぶりに充実した山行だった。

文責：太

## タイム

6：40 小木津駅→7：15 小木津山→8：30 小木津山分岐→8：40 羽黒山→8：50 沢平分岐  
→9：30 神峰山→9：55 きららの里分岐→10：10 光陽台分岐（本山トンネル跡）  
→10：20 御岩神社分岐→10：35 御岩山→10：45 玉だれ滝分岐→11：05 高鈴山  
→12：40 ゴルフ場入口→13：30 林道出会い→13：40 高貫分岐→13：55 中丸分岐  
→14：15→14：30 真弓山→15：30 金沢分岐→15：45 風神山→16：40 大甕駅



# 三本槍岳 1916.9m

2月21（日）菅野、渡辺 敏夫



天元台スキー場から若女平経由のBC スキーを計画していたが、強風のためロープウェイもリフトも営業休止の恐れがあり、急遽マウントジーンズスキー場から三本槍岳に変更した。2週間前に菅野さんと隣の赤面山に登っている。その時、山頂ではかなりの強風だったが、今日は穏やかなことを期待して出発した。ゴンドラを利用して山頂駅に到着して登り始めた。天気は快晴で風も穏やかで登山日和だ。左の茶臼岳、朝日岳、右の2週間前に登った赤面山を眺めながら、中の大倉尾根を登って行った。傾斜の緩やかな樹間もまばらな歩きやすい尾根だ。三本槍岳の前衛峰の登りの傾斜が次第にきつくなり、尾根にも灌木が目立ち始め、スキーを脱いでデポし、アイゼンに履き替えて三本槍岳を目指した。前衛峰では雪のないところが所々現れ、アイゼン歩行が厄介である。間もなく、三本槍岳山頂に到着した。山頂ではかなりの強風で、体があおられる。旭岳や大峠から北の大倉山や三倉山が望められる。早々に引き返し風の当たらないところで昼食をとり下山した。気温が上昇して

雪が緩みスキーのすべりが悪くなり、足に力を入れないと転びそうになり、疲れる。最後はグレンデを滑り駐車場に戻った。

コースタイム

スキー場ゴンドラ駅 8:56→スキーデポ 10:45→三本槍岳山頂 11:13 11:15→スキーデポ地点 11:21 11:34 →昼食 12:01 12:12→ゴンドラ駅 13:05→駐車場 13:26

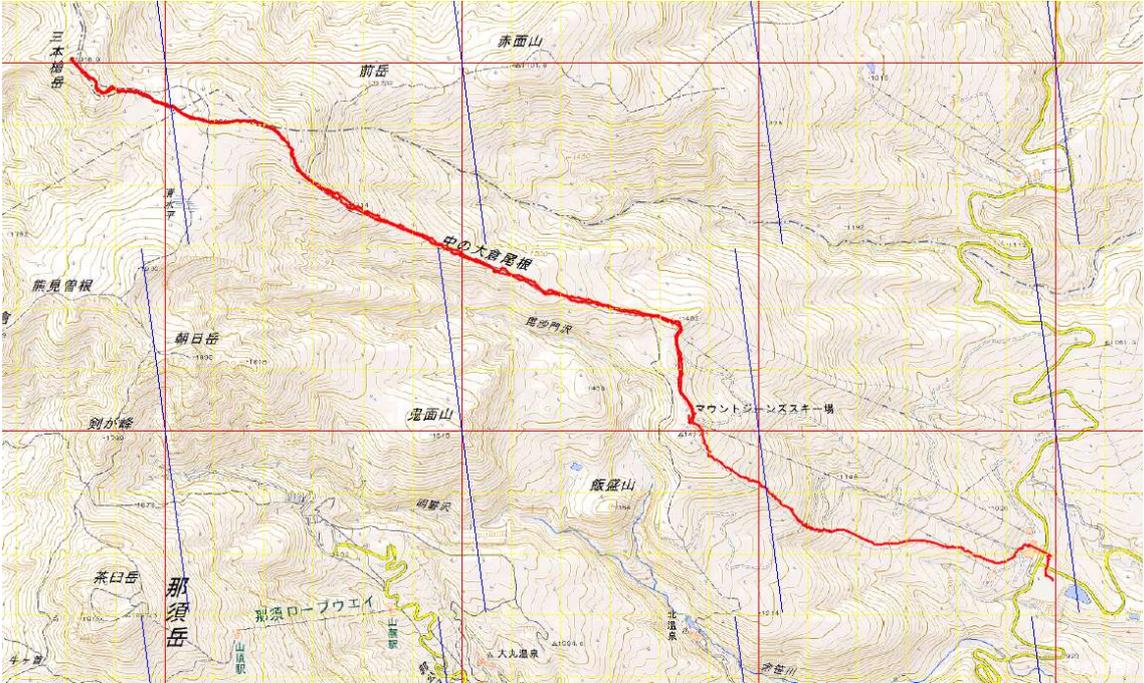
文責 渡辺敏夫



朝日岳（左）と三本槍岳の前衛峰（右）



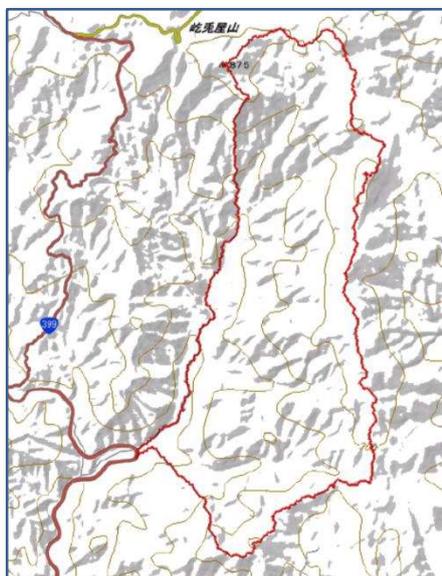
茶臼岳（左）朝日岳（中）三本槍岳前衛（右）



# ぐみ たいら 茱萸平から屹兔屋山、猫啼山、ニッ箭山周回

2021年2月21日

上遠野はつ美、蛭田ミチ、佐藤幸子、小林憲兒



今回は茱萸平から屹兔屋山、猫啼山、ニッ箭山と周回してきました。2018年にいわきの山を歩く会で歩いたコースです。茱萸平橋を過ぎたところから林道を歩きます。どこまで林道を歩いたか記憶も微かでしたが、ようやく屹兔屋山への登山口に到着しました。ここから何か所か短いものの急登箇所を経てようやく屹兔屋山山頂へ到着しました。

ゆっくり休憩後、猫啼山に向けてスタートです。登山道の真中にバイクの轍が目立ち、一部歩きにくい箇所もありました。

屹兔屋山から猫啼山間はアップダウンが少なく歩きやすい道でした。途中で木の間から三森山や広野火力発電所が見えました。三森山～猫啼山はまだ歩いていないので、次回歩いて

てみたいと思います。

猫啼山で昼食後、ニッ箭山に向かいました。ここは一旦、林道と交差する登山口まで下りてから、ニッ箭山へは少し急な登りです。ニッ箭山では記念撮影だけで、女体山で休憩予定で進みましたが、茱萸平への分岐が手前にあったため、そのまま下山しました。茱萸平へはまず、急な岩の下り（ロープあり）、細尾根と続きます。尾根道の所々で、泥の上に枯葉が載っていて



滑ります。すべらないように！とこえを掛けている自分が滑って、お尻が泥まみれでした。今回、他のメンバーが歩いたことがないとのことで、ニッ箭山から茱萸平に下山しましたが月山経由のルートが無難だと思います。今日も楽しい一日をありがとうございました。



茱萸平登山口 8:49～屹兔屋山登山口～11:05 屹兔屋山 11:45～12:45 猫啼山 13:40～14:35 登山口 14:45～15:10 ニッ箭山～16:25 茱萸平登山口

(文責 小林憲兒)

# 2012年2月登山教室「八森山スノーシュー」

2021年2月23日（火）

参加者：下山田会長他山学会会員13名、登山教室生5名

2月の登山教室は冬山登山ということで裏磐梯檜原湖西側の八森山スノーシューであった。

スキーの経験はありましたがスノーシューにての雪山登山は初めてでワクワクしながらの参加である。

朝、いわきを出て郡山に入ると車のフロントガラスに少しであるが雨粒の様なものが付き、また、風が出てきた。あまり寒くならないように願いながら猪苗代に向かった。R49 から R115 へ更に R459 にて裏磐梯へと向かう。さすがに積雪量が多い。路面上の雪は無かったのだが檜原湖周辺から白くなり運転に緊張が走る。道の駅裏磐梯付近から県道 64 号移り目的地の細野登山口に着いた。（8：30頃）

登山の準備をし、いざ出発。（9：00頃）天候は曇りで風もある。リーダーより吹雪で視界不良となる場合があるので前後はあまり離れすぎないように、途中で止まる時は先頭の人に声を掛けストップしてもらい全体が離れないようにする事との指示を頂いた。スノーシューを着けたのは初めてなのでうまく足にフィットせず外れたり、左右を踏んでしまい転びそうになったりと中々大変であった。行程について、目的地の山頂は風があり天候不良の可能性があるので手前のピークを目指すこととなった。

伊藤さん、渡辺さんを先頭に山林の中を登っていく。次第にスノーシューにも慣れてきた。楽しい。雪山の静寂が気持ちよい。いつの間にかピークに着いた。ここで小休止（10：30頃）

休憩後平場に移動し、冬山についての注意事項、遭難時のビーコンの使用方法和雪に埋もれた場合の救助方法についての講習を受けた。佐藤さん遭難者役お疲れ様でした。私が感じたことは、雪に埋もれてしまうと遭難者が声を出しても声が雪に吸収されてしまい救助者に声が届かない。ビーコンの所持は大切であると認識した。

その後、除雪道具で雪を掘りテーブルを作り昼食となった。（12：00頃）

雪の中では暖かい飲み物がとてもありがたく思えた。

昼食を終え、下山の前に渡辺さんの山スキーの説明を聞いた。山スキーも面白そうである。

下山開始。途中で視界が広がり檜原湖と磐梯山が見えた。檜原湖上のワカサギ釣りのテントがなんともかわいい。

13：00 無事細野登山口に到着。けがもなく下山できました。お疲れ様でした。そして今回もいろいろと教えて頂き誠にありがとうございました。また次回もよろしくお願いいたします。

## タイム

八森山細野登山口出発 9：00 → 958m ピーク 10：30（小休憩） → 雪山研修（ビーコン、救助・探索方法等、雪洞）11：20～11：45 → 昼食 12：00～12：30 → 下山開始 → 細野登山口到着 13：00 → 解散

（文責：安部）

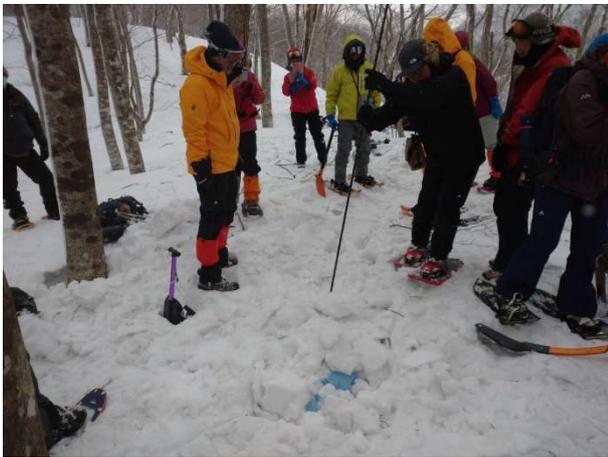
出発前の準備状況



登山状況



講習状況（遭難者捜索）



集合写真



登山行程

🕒 タイム	📏 距離	⬆️ 上り	⬆️ 下り
<b>03:55</b>	<b>2.4 km</b>	<b>144 m</b>	<b>145 m</b>



# 山行報告 湯ノ岳・陸軍練習機殉職慰霊碑

2021年2月25日(木)

下山田安廣、秋葉信夫、栗崎透、吉田睦、尾形成久、尾形長子

湯ノ岳には2か所の戦跡がある。一つは東斜面(内郷高野地区)の米軍輸送機墜落跡。もう一つは南西斜面(常磐藤原地区)の陸軍飛行学校練習機墜落跡、その跡地を尋ねた。



現地は旧パノラマラインの西側下を通る林道からだと直ぐなのだが、今回は川上溪谷登山口からピストンした。

慰霊碑はきれいに整備されスギ林の中にひっそりと佇んでいた。戦時中だとはいえ、遭難から僅か1年後には慰霊碑が建立され、現在も供養が続けられている。藤原地区の人たちの献身性・努力には頭が下がる。

戦後75年を過ぎ、過去の事実が忘れ去られようとしている。是非2つの戦跡を訪ね、悲しい出来事を繰り返さないように語り続けたい。

(文責：秋葉)



昭和十七年八月二十八日  
陸軍中尉 若林辨治  
陸軍曹長 内山真治 殉職の碑  
昭和十八年八月二十七日 大字藤原建立

# 和尚山と田人最高峰 802m無名ピークのウォーキング

2021.2.28

秋葉、吉田、芳賀、長谷川、赤塚（将）（園）

北茨城市に所在し福島県に隣接する多賀山地最北の山「和尚山」に登ってきました。

標高 650m超えの登山口から、フワフワの落ち葉を踏みしめ途中から何故か藪漕ぎを始めた A 氏の後に続き、あっという間に 20 分弱で 803mの山頂へ。

下山後、いわき市に戻り、田人最高峰 802mの無名ピークを目指しました。

林道弥太郎線を歩き、途中からまたまた藪漕ぎをしながらの山登り。

25 分くらいで 802mの山頂へたどり着き、そしてお楽しみの「ティータイム」！！

下山は別ルートを歩き、林道弥太郎線に戻りました。

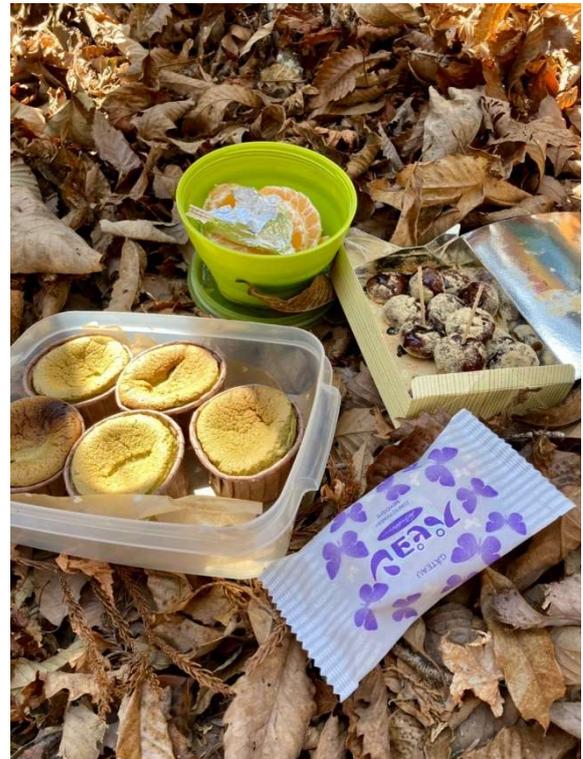
帰りに無名ピークということで A 氏により 802mになぞり、“ヤレヤレ山”と命名されました。

コースタイム：

和尚山登山口 8：30⇒頂上 8：56

田人 802m峰登山口 9：43⇒頂上 10：04

文責：赤塚（園）



# 島倉山（しまくらやま）

標高 87.4m 三等三角点  
2万5千分1地形図〔磐城泉〕  
いわき市（小名浜）

## 特 徴

県道 20 号線（旧国道 6 号）を平から勿来に向かって行き、下船尾交差点で小名浜方面を分けると前方左側に見えてくる小高い丘がいわき市小名浜島にある低山・島倉山です。

島倉山は南北朝期に岩城氏の一族であった岩崎氏の城館があった所で、その痕跡を見ることができる。岩崎氏はかなりの勢力を誇っていたらしいが、有力な家臣は主君にとって脅威ともなりかねない。そうしたこともあって、岩崎氏は応永 17 年（1410）に岩城隆綱に攻撃され、滅ぼされてしまったという。

藤原川沿いの沖積平野に半島状に突出した 87.4m の丘陵であり、東麓の海拔 5m 前後には海蝕崖がありそこには小さな蟹が住んでいた穴などがあって縄文時代の旧海岸線を示している。

この山の周辺に「館」「館下」「堀ノ内」という地名があり地名からもこの山が城館であったことが確認できる。



## コース案内



### 【南西登山口】

タウンズヴィルニュータウン入口のコンビニのある信号機の交差点を東側に入って行き赤い鳥居の所。私有地なので隣の家に断ってから登った方が良い。鳥居の手前にはかつて金が掘られたという横穴が残っている。

岩を削った斜めの階段のいきなりの急

登で、滑り落ちそうになりながらトラロープに掴まって登る。尾根に出るとツツジの植栽もあり、かつては大切にされ多くの人々が訪れたであろうと思われる。館跡には牛頭天王の石碑と祠がある。30 分。



### 【南登山口】

前記登山口の 2 軒手前の民家から登り曲輪跡に出る。20 分。

### 【北登山口】



金寿院の薬師堂から脇からかつて参道であったと思われる整備された路を登ると、三等三角点と祠がある。40 分。

チョット南西側に下がり曲輪跡と牛頭天王社まで行くと良い。

**交通：**JR 常磐線湯本駅、いずみ駅

**マイカー：**金寿院か極楽の湯の駐車場をお借りする。

**アドバイス：**館の西端には県道 20 号線（旧国道 6 号）が通り、改変が著しいが馬場であった。その西隣の丘陵中ノ内にかけても曲輪群があり、この城の延長と考えられている。



（文責 秋葉）



酒のいしかわ

金寿院

社

信号  $\Delta 87$

牛頭天王社

泉町本谷

曲輪跡

堀ノ内

鳥居

信号

横ノ

極楽の湯  $\Delta 82$